

平成28年度協働事業報告会（27年度事業実施分） 質疑応答

「ノバティズ・パーフェクト・プログラムによる親育ち講座事業」（市提案協働事業）
（特定非営利活動法人ブーケの会 / こども相談課）

- Q 平成27年度の協働事業としては終了したが、平成28年度もこの事業を実施するのか。
- A （担当課）講座は引き続き実施する。協働契約を締結するという形ではないが、広報及び託児費用の一部負担（保育ボランティア）を市が行う。平成27年度と同等の負担金という形ではないので、その部分については受益者負担として参加費（2,600円）＋託児費（2,000円）を徴収して参加者に負担していただく。
- Q 市はエンジョイ子育て応援講座として、このNP講座（ノバティズ・パーフェクト・プログラム）のほか、BP講座（ベビープログラム）、どならない子育て講座、を実施しているとのことだが、NP講座とその他2つの講座との違いは感じられたか。
- A （担当課）協働で実施したことによる違いとしての実感ではないが、対象年齢的にどならない子育て講座とNP講座は近い。講座の内容としては、どならない子育て講座は決まったプログラムによりDVDを見てもらい、「あなたならどうしますか？」というような形でロールプレイを行うもので、NP講座は、参加者同士の話し合いが中心で、参加者でテーマを決めてもらって話し合うもの。それぞれ講座の内容が違うので、両方ともぜひ参加してもらいたいと思っている。
- Q 参加者が8回とも継続して参加したということで、素晴らしいと思う。8回開催するというのは大変だったと思うが、8回開催する必要はあったのか。
- A （団体）参加者が抱えている問題について、それぞれ提供し合って話し合いのテーマにする。初回は挨拶と自己紹介、最終回は修了式として、話し合いの内容を改めて皆で共有する回として実施する。残りの6回で、参加者10数名が抱えている問題をテーマとして話し合いをする。参加者を取り巻く全ての問題（友人、嫁姑、夫などあらゆること）について話し合うため、それに必要な回数として8回の開催を設定した。
- Q 託児はどんな方法で実施したのか。
- A （団体）保育ボランティアにお願いした。別室、母子分離で行った。
- Q 決算書の人件費として、「保育者謝礼の71人＋17人」と「学生保育者謝礼の32人」の記載があるが、全体で120人のボランティアをお願いしたということか。
- A （団体）保育者謝礼は社会福祉協議会にお願いした保育ボランティアの延べ人数で、育ママ講座が71人、育メン講座が17人。学生保育者謝礼は大学の学生にお願いした学生ボランティアの延べ人数。社会福祉協議会の保育ボランティアをお願いしきれない部分を大学の学生に協力してもらった。学生保育者謝礼の単価350円は交通費として支払った。学生に保育の実習のような形でお願いしたので、例えば3人お願いしたところ5人になることもあるし、2人になることもあった。
- Q 大学と連携できたのはとてもいいことだと思う。ぜひ広げていけたらいい。大学にはどのように協力をお願いしたのか。
- A （団体）元々大学にボランティア参加の仕組みがあり、その仕組みでお願いした。BP講座の関係で大学の先生とつながりがあったので、お声掛けもした。
- Q 育ママの参加者が15人、育パパの参加者が3名ということだったが、もっとこの講座を受

けたい人はいるのではと感じた。それについてはどう感じているか。

- A (団体) もっとたくさんの人に知っていただきたいと思っている。今回は協働事業として市からの負担金があったため、参加費用をかなり抑えることができ、費用の面でのハードルが低かったからこそ参加できた方もいると思う。平成28年度は参加費用をとることになるため、その費用を捻出できる人しか参加できないところに課題を感じている。こども相談課とも相談して進めていきたい。
- Q 育ママ講座の開催日が平日に設定されているが、専業主婦を対象としているということか。働いているお母さんに対してはどう働きかけていくのか。また、この講座が終わった後の参加者同士のつながり方についてはどう考えているか。
- A (団体) 専業主婦と働いているお母さんでは悩みが違う。悩みと言っても一概には言えないが、専業主婦は、閉塞感、心理的な孤立感を感じ、働いているお母さんはまた違う悩みを抱えている。やるなら働くお母さんに向けたNP講座を実施したほうがいいと思う。講座が終わった後については、親と子のたまり場「ドロップイン」という活動をブーケの会で行っている。NP講座の参加者が、講座が終わった後にも集える場としてつくったもの。ここは皆さんのための場所ですよ、と呼びかけているので、是非来てもらって、講座が終わった後も仲間としてつながってもらいたい。
- Q 参加者のアンケートの回答から、今まで自身の団体だけで実施していた時と、協働で実施した今回との違いは感じられたか。
- A (団体) 今まで自身の団体だけで行っていた時は5千円程度の有料で実施しており、今回は500円で実施できた。5千円の負担をお願いした時と今回とでは、参加者の雰囲気が変わったように感じた。今までより広い範囲の方に参加して頂けたのだと思う。
- Q この事業について、課題として感じていることはあるか。
- A (団体) この事業は今後とも継続していきたい。社会福祉協議会からの助成金を利用して、ファシリテーターの養成をしている。当会には5人程度ファシリテーターが所属しており、毎年1人は養成し、10人程度まで増やしたいと考えている。現状はファシリテーターに対して1千円程度を交通費相当として支給しているが、将来的には1回1万円程度の報酬を出せるようにして、仕事として成り立つようにしたい。